

美術家 宇佐美雅浩の制作プロジェクト Manda-la in 東広島 撮影参加者募集

「Manda-la」広島版から 10 年、大型プロジェクト始動。

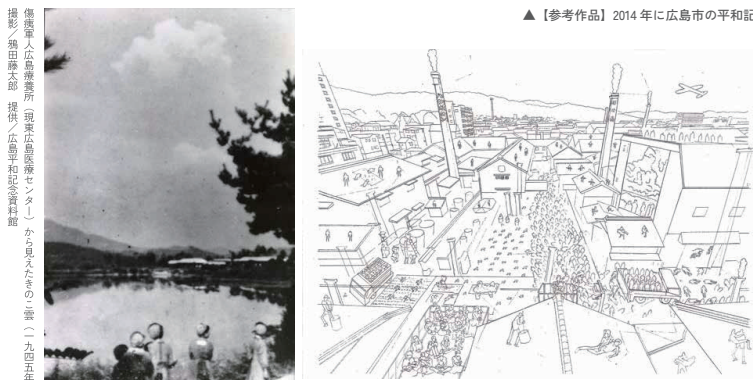
CG 合成に頼らないリアルなロケ撮影に参加して未来へつなぐ作品をつくろう



酒蔵の煙突や美しい赤瓦の風景が目をひく東広島では、明治期の近代化とともに酒づくりが発展し、戦時中の苦難を乗り越え現在に至っています。一九四五年八月六日の朝、東広島でもきのこ雲が目撃され、その後広島へ救護に向かった人が多数いました。

今回のプロジェクトでは、失われつつあるその記憶と、これまで発展してきた酒づくりの歴史を壮大な一枚の写真に焼き付け、未来へとつなぎます。

▲【参考作品】2014年に広島市の平和記念公園で実施した「Manda-la」宇佐美雅浩《早志百合子 広島 2014》
©USAMI Masahiro Courtesy of the artist and Mizuma Art Gallery



宇佐美雅浩《撮影イメージ ドローイング》



撮影日

2024年11月2日 [土]

天候予備日 11月3日 [日]

13:00-16:00 のうち 2 時間程度（詳細は後日発表）

場所：西条本町歴史広場周辺

〒739-0011 広島県東広島市西条本町 9-9



実施概要詳細・

← 参加申込みはこちら

お問い合わせは下記美術館まで



東広島市立美術館
HIGASHIHIROSHIMA CITY MUSEUM OF ART

〒739-0015 東広島市西条栄町 9-1
TEL 082-430-7117 FAX 082-430-7118
hhmoa.mandala@gmail.com



美術家・宇佐美雅弘の作品に参加しませんか？

Manda-la in 東広島 撮影参加者募集

美術家・宇佐美雅浩が長年続けている〈Manda-la〉シリーズ。代表作である《早志百合子 広島 2014》は、2014年に広島市内の原爆ドーム前で約500人を集め、花や食卓など様々なものを現地に配置し大型の写真作品として制作されました。合成は一切行わず、現地でリアルにつくりあげ撮影された作品です。

今回の制作プロジェクトでは〈Manda-la〉 東広島版として、市制施行50周年の年度最後の特別展のために、原爆投下80年を迎える2025年という年に、東広島の特徴である赤瓦の風景や明治以降の近代化で発展した酒づくりの歴史文化、現代において消えゆく戦時中の出来事にまつわる人々の記憶をもとに、1枚の大型写真作品を制作します。西条の酒蔵通りの一角を舞台として、東広島の過去から現在、そして未来へとつなぎ、この街の歴史や文化とともに、今を生きる人々の記憶や歩みを作品として後世に残す制作プロジェクトです。

なお、完成した写真作品は東広島市制施行50周年記念「Recollection ⇄ Vision 東広島の過去・現在・未来」展(2025.2.7-3.23)の主要作品として展示されます。ぜひ会場でご自身の姿をご覧いただければ幸いです。参加者には記念特典として完成作品の作家サイン入りポストカードを進呈いたします。こちらどうぞご期待ください。

【実施概要】

日程／2024.11.2(土) [天候予備日 11.3(日)] ※雨等天候状況により延期する場合の日程
時間／13:00～16:00のうち2時間程度(詳細は後日発表)

※現場配置、説明など準備を含む。撮影時間は30分程度を予定。(変更の可能性あり)

参加作家／宇佐美雅浩(美術家)

参加対象／一般・大学生・子ども(高校生以下)・乳児(0歳～1歳児／要保護者同伴) 総勢約500名予定

場所／西条本町歴史広場、その他隣接エリア(〒739-0011 広島県東広島市西条本町9-9)

アクセス／JR山陽本線「西条駅」南口徒歩約5分

※当日は近隣で大型イベント開催予定のため、駐車場の混雑が予想されます。

原則、公共交通機関をご利用の上お越しください。専用駐車場はございません。

周辺の有料駐車場をご利用いただく必要がございます。

【お問い合わせ】 東広島市立美術館 (〒739-0015 東広島市西条栄町9-1)

TEL 082-430-7117 FAX 082-430-7118

Email hhmoa.gakugei@gmail.com

参加方法詳細・
お申込みはこちら
(Webフォーム)



宇佐美雅浩による「Manda-la in 東広島」のコンセプト

1945年8月6日、賀茂高等女学校に通っていた女学生は、学徒動員のため登校する途中に、B29が飛んで行くのがみえた。その後、ピカッと光った後にキノコ雲を見た。一日を過ごしたのちに下校し近くの西条駅に行くと、列車で広島市から原爆の被害を受けた方々が運ばれてきていた。原爆が投下された、広島市内の爆心地から直線距離で20Kmに位置する東広島市からもピカッという光と、キノコ雲が目撃された。原爆投下後、賀茂高等女学校の女学生をはじめ多くの市民が東広島から広島市に向けて救護にむかい多くの被爆者を看護したという歴史がある。また、明治期以降の近代化や鉄道網の発達とともに酒づくりが発展した東広島では、戦時下における物資不足や制限のなかでも途絶えさせることなく守り、戦後の経済成長で東広島の酒づくりは繁栄していった。当時は酒仕込みが本格化する秋冬時期に、農閑期に入る農業従事者たちは、県内外の酒蔵に蔵人として酒造りに携わる例が少なくなかった。女学生の親族は、農閑期になると酒づくりの仕事にかかわっていたという。本作品では、東広島の市民でさえあまり知られていない被爆者を救護した歴史と、酒づくりの繁栄を当時女学生であった人物を起点として東広島の誇る、赤瓦の美しい屋根の風景にフォーカスを当てながらこの制作を展開する。

【展覧会情報】

今回の制作作品は、下記展覧会でドキュメント映像とともに展示します。

東広島市制施行50周年記念「Recollection ⇄ Vision 東広島の過去・現在・未来」

2025.2.7(金)-3.23(日) ※月曜休館(祝日の場合は翌平日休)

主催・会場：東広島市立美術館 3階展示室(観覧料有料)

市制50周年を機に本展を通じて、現代において失われつつある記憶をもとに、この街の歴史に焦点を当て、奇しくも戦後80年を迎えるこの年に平和への想いを重ねながら未来へとつながるこの街の可能性を、現在の視点から制作プロジェクトを通じて捉える。



東広島市立美術館
HIGASHIHIROSHIMA CITY MUSEUM OF ART



hhmoa_photo



hhmoa_tw



東広島市立美術館公式



公式webサイト